

第1回学校評議員会 議事録

日 時：令和7年6月30日（月）14：00～15：00

場 所：男鹿工業高校 会議室

参加者： 学校評議員

・清水 隆成 様 ・櫻庭 直美 様 ・畠山 千夏子 様
・菊地 修 様 ・石川 敦 様

男鹿工業高校

・校 長 森元 弘毅 ・教 頭 須田 和仁 ・事務長 木村 哲也
・総務主任 藤原 一成

司 会： 男鹿工業高校 須田 和仁 教頭

- 資 料：1 令和7年度第1回学校評議員会実施要項
2 令和7年度学校要覧
3 令和7年度あきた型学校評価
4 令和6年度進路内定状況、クラス別進路先一覧
5 令和6年度運動部・文化部・ものづくり活動一覧、令和7年度戦績
6 秋田魁新報記事（6月7日付、21日付）
7 令和7年度学校案内

1 開会

2 評議員の委嘱

3 校長あいさつ

森元校長より学校評議員の快諾、平素からの本校教育活動への理解・協力への感謝の意を述べる。統合校について、設置場所は男鹿海洋高校の予定であること、令和11年開校に向けて開設準備室が設置されたこと、来年度設備システム科が募集停止であることを伝える。また、本校の教育課題への対応についてそれぞれの立場から指導・助言を頂戴したい旨を伝え、挨拶を終える。

4 評議員及び職員の紹介

（出席者から自己紹介）

5 学校経営方針説明（校長） 学校要覧P5について説明する。

- ・教育目標、教育方針は記載の通り。
- ・本年度の重点目標について
男工プライドとブランド力の強化。
変化の時代であっても、だからこそ進化・発展していく。
- ・重点目標実現のための具体的な取組について（1）～（4）について説明する。

6 学校状況（教頭）

・職員組織・日課表（学校要覧P8）

教職員平均年齢男子55.4歳、女子48.3歳、教諭平均年齢53.3歳。

・在校生の状況（学校要覧P19）

1年生60名、2年生71名、3年生64名、全校生徒195名。定員315名に対して61.9%。

・出身中学校

男鹿市38.5%、秋田市30.3%、潟上市26.7%、この3市が大半を占めている。
その他県外から3名の入学者。

・進路状況（資料 R6年度進路先内定状況）

就職69%、進学31%。県内就職率は73%、昨年比減。国公立大学1名。

就職では、企業説明会、応募前職場見学、面接模擬練習会などを通じた丁寧な指導で希望者全員内定。業種別では、製造業が多く、次いで建設業の順。本校は他校とより建設業への就職者多数。県建設課主催の出前説明会、業界団体との交流会など、専門性をアピールできていることが要因。

進学では、工業高校の特色を生かした課題研究などの活動により国公立大学へ合格。例年本校の第1希望内定・合格率が90%弱に留まっていたが昨年度は94%と増加に転じた。

・特別活動（資料 令和6年度運動部・文化部・ものづくり活動一覧、令和7年度戦績）

R6年度 空手道部 全国選抜大会 女子個人組手 三浦 5位入賞

ラグビー部 東北新人Ⅱ部 優勝

R7年度 空手道部 男子個人形、女子個人組手 2名がインターハイ出場

水泳 全県総体1500M自由形4位、400M個人メドレー5位

東北大会出場

・秋田魁新報記事について説明

7 あきた型学校評価システム（総務主任）

・各分掌・学科・学年部で⑤「目標達成のための方策」まで入力済み。

・中間評価が10月、年度末評価が2月、県教育委員会への報告が3月。

・中間評価は⑥「具体的な取組状況」、⑦「達成状況」を各分掌・学科・学年部でフィードバック、その後⑧「自己評価」、翌年、評議員に⑨「学校関係者評価と意見」の評価、意見を依頼。

・上記を元に⑩「自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策」策定。次年度への橋渡しとする。

8 質疑応答・意見交換・提案

〈質問 1〉不登校の生徒について。

〈回 答〉中学時からの不登校傾向にある生徒がいる。各学年 1 人程度である。

高校入学時では違う環境で頑張ろうという意志がある。

リモート授業は現段階では単位認定とはならない。

〈質問 2〉入試の定員割れについて。

〈回 答〉入試得点だけではなく、中学時の調査書も重要となるため、定員割れでも全員が合格するとは限らない。特色選抜で募集するも、各部活動の部員数が減ってきている。

〈感 想〉男工生は一人でいても、グループでいても挨拶してくれる。

ものづくり出前授業など、今後も継続してもらいたい。

9 校長謝辞

10 閉会